

第2部 ②

陸奥湾の不思議たち

東北大学浅虫海洋生物学教育研究センターの研究から

陸奥湾の砂浜には体長20センチにも達する大きなシロナマコが人知れずすんでいます。逆立ちの姿勢で砂にもぐり込み、肛門が開く尾の先端を砂の表面にわずかに出してしています。静かに砂を飲み込み、砂に含まれる細かな有機物や藻類を餌としてい

る彼らは砂浜を浄化し、きれいな環境を保つのに一役買っています。有機物を消化、吸収した後の砂は、砂の表面に開口している肛門から海水とともに勢いよく出されます。そのため肛門の近くには砂の山が、口の上にはすり鉢状のくぼみが現れます。

この山とくぼみは、シロナマコを捕まえる絶好の目印。このような特徴ある地形を見つけたら、くぼみの上に静かに手をかざし、激しくあおいでみましょう。おおがれた水が砂を巻き上げ、どんどん砂を掘ります。辺りは舞い上がった砂煙で濁りますが、休まず続け

砂浜の浄化に一役

シロナマコ



体長約20センチのシロナマコ①と、シロナマコに寄生するシロナマコガニ(脚を含め体長約2センチ)

ます。腕が砂の中にすっぽり入るまで掘り進んだら、穴を大きく広げます。うまくいけば、大きな穴の中に所在なさに漂う白い大きなシロナマコを目にすることができ、掘っている途中に、

シロナマコに触ってしまつてしまいます。そんな時にも砂をおおぎ続けましょう。指先で硬く締まった砂をかいてシロナマコを捕まえることは至難の業です。そんな硬い砂の中でもシロナマコは驚くほど速く逃げます。また、運良く砂の表面にシロナマコの尾を見つけても、掘り出すのは大変です。素早く尾を引っ込めて分からなくなってしまうからです。無理やり尾を捕まえても、尾の先を切られて逃げられてしまうことがよくあります。ちぎれた尾の先から赤い血が流れ出てきます。酸素の少ない砂の中で生活をする彼らは、体の中から酸素を逃がさないように血液の中にヘモグロビンを持って

ついでに、砂の上に掘り出されたシロナマコは口がある丸い先端から砂に潜り始めます。静かに、速やかに潜り、4〜5分もすれば完全に姿を隠してしまいます。シロナマコは南半球まで分布していますが、陸奥湾を除けば深い海底にすんでおり、目にする機会ほとんどありません。理由は不明ですが、この陸奥湾では波打ち際で見られます。

当研究センターは設立当初からさまざまな実験にシロナマコを用いてきました。食用とされない彼ですが、陸奥湾を代表する動物として、世界的に知られた貴重な動物なのです。

(助教・武田哲)